

教科【外国語】・種目【英語】

書名 項目	NEW HORIZON English Course	2 東京書籍
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○新出語彙に stress を示す記号の表記、フォニクスにつながる「Sounds and Letters」など、正しく、英語らしい自然な音声を習得するための工夫が見られる。 ○新出文法の留意事項を端的に比較したりしながら明示している。 ○綴りと音の関係を身に付けられるように工夫して提示している。 ○アルファベットの学び直しの場が第1学年の冒頭にまとめて設けられている。そのため早い段階から書く活動を取り入れている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○定型表現の活用を促すために、「付録」では言語の働きごとに既習表現を整理して示している。 ○読む活動において、概要から詳細情報の把握となるよう段階を追って発問が設定されている。さらに自己の考えをまとめて表現する活動を含め、一連の過程としている。 ○実生活に近い場面や題材を取り上げて言語活動を配置している。特に「Let's Listen」では、放送案内などを再現している。 ○表現力を高めるために、スピーチやプレゼンテーション、ディスカッションに段階的につながるような言語活動を配列している。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○多様な国や地域的生活習慣等、文化に対する理解を促せるような内容を取り上げている。 ○巻末に「学習をふり返ろう— CAN-DO リスト」が示され、各学年における目標を明示している。 ○單元ごとに CAN-DO リストに関連づけられた目標が設定されている。 ○主体的な学びを促すために「学び方コーナー」を設けている。 ○相互評価や自己評価を通して技能が高まるよう意識化を図っている。 ○身近な場면을扱った内容に加え、環境や共生、国際理解、人権問題などの今日的な課題を取り上げている。 <p><聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○單元内に「Mini Activity」や「Unit Activity」、複数単元のまとめりと「Stage Activity」など、学習した言語材料を5領域で活用してコミュニケーションを促す場がある。 ○主となる言語材料を学ぶ過程で、「Tool Box」などで語彙等を広げる工夫がされていて、使いながら学べるよう工夫されている。 ○言語活動で話すこと [やりとり] を取り扱う單元では、言語の使用場面を意識できるように明示している。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○巻末に小学校で扱った語彙をまとめたり、付録で語彙補充を図ったりしている。 ○資料映像を QR コードで視聴できるようにしている。 ○言語活動に用いる資料が図示されている。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○UD font を使用しており、読みやすくする工夫が見られる。 ○新出言語材料を見やすく示している。(太ゴシック) ○A4判で紙面にゆとりがある。 ○親しみやすい挿絵が用いられ、主に内容の状況描写の補助となっている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校での外国語教育を踏まえた内容となっている。特に接続期に集中して小学校で扱った言語材料を整理することを強く意図している。 ○新出言語材料を定着させるための諸活動として、5領域の中から適切な活動を單元内に配置しているため、單元内の活動設定にはゆとりがあり、教員の創意工夫を生かせる。 	

教科【外国語】・種目【英語】

書名 項目	SUNSHINE ENGLISH COURSE	9 開隆堂
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○QR コードがついており、音声聞いて繰り返し学習できるよう工夫されている。 ○1年生では、「Get ready」や「Program0」で、小学校での学びを生かすよう工夫されている。 ○「Scenes(言語活動導入ページ)」がマンガ形式で、言語の使用場面が明確になっている。 ○「Word Web」では語彙力の強化、「Power-Up」では定型表現の強化が期待できる。 ○英語の発音・アクセント・イントネーション・リズム等に関する注釈が多数掲載されている。 ○「Step」では「Our Project」で表現する際に役立つ技能が習得できるよう工夫されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○とびら(目標の確認)→「Scenes(日常の場面で表現を学習する)」→「Think(題材内容について考える)」→「Retell(本文内容を自分の言葉で再現する)」→「Interact(学んだ表現を用いて自己表現する)」→「英語のしくみ(学んだことを整理する)」という構成になっており、見通しを持った学習や学習の振り返りがしやすい。 ○「Our Project」では、表現するための考え方や手立て、聞き手への配慮等を丁寧に解説している。また一方的な表現ではなく、お互いにコミュニケーションを図るために質問したり、答えたりする活動を多く取り入れている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「小学校から中学校までの学びの構成」、「できるようになったことリスト」、「単元のGoal」等が示されており、見通しを持って学習できるよう工夫されている。 ○「Think」で扱う題材は、AI、オリンピック・パラリンピック・Sign Language・日本の文化・海外の文化、SDGs など、多岐に渡っている。社会の多様性を理解し、世界に目を向けると共に、自国の文化や自分の考えを発信していく態度等を育成するよう、工夫されている。 ○「Think」では本文理解を問うQAだけでなく、自分で推測して答える問題を設けている。また考え方の違いを仲間と共有したり、話し合ったりするような日本語の問い「Share」を設けている。 <p><聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○5つの領域のうち、主にどの活動を行うのかを、わかりやすく記号で示している。 ○「Try」では、テーマを決めて即興で「話す」活動を行う工夫がなされている。 ○「Power-Up」や「Step」、各単元の最後にある「Interact」では各領域の活動が、バランスよく組み込まれている。特に、話すこと〔やり取り〕〔発表〕が充実している。 ○「Our Project」では、まとまった英文を書くこと、メモをもとにして発表すること、それに対して質問したりや答えたりできるよう、テーマや手立ての工夫がなされている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○各単元の導入のとびらに、鮮やかで大きな写真が用いられている。学習の「見通し」が立てやすく、興味関心をひくよう工夫されている。とびら以外の写真も鮮やかで見やすい。挿絵は小さく、登場人物は現代風である。 ○一部を除き、使用されている英文の内容が幅広く、タイムリーで興味関心をひくものになっている。 	
表 記 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○色分けされた記号やマークで、どの生徒にもわかりやすい工夫がなされている。 ○文字の大きさや字体に工夫がなされている。1年生の前半は、手書きのような親しみやすい文字が使用されている。場面の導入やイラスト内は親しみやすい小さな文字、「Think(本文)」では、はっきりとした読みやすい文字、英語のしくみ(文法のまとめ)では大きなサイズの文字を使用している。また、大事なところが色分けされていてわかりやすい。 ○New Words は単語とアクセントのみ表示し、発音記号は「巻末資料」に移している。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートなど補助教材を作成する必要がないほど、多くの言語活動が掲載されている。 ○小学校での学びを生かし、中学校の学習につなげていく工夫が随所に見られる。 ○日常の言語の使用場面が多く用いられており、学習効果が期待できる。また生徒・教師両方の日本語使用を減らすことができると期待できる。 	


教科【外国語】・種目【英語】

書名 項目	NEW CROWN English Series	15 三省堂
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○新出語彙に stress を示す記号、調音点や調音法の意識、pause のとり方などが示され、正しく、英語らしい自然な音声を習得するための工夫が多く見られる。 ○新出文法の文型練習の活動として設けてある「Drill」では、生徒が使えるような語彙を提示してあり、言語活動をしやすくしている。 ○アルファベットの学び直しの場がていねいに設けられている。特に書き方について、文字から句や文を書く際の留意点へと段階的に扱っている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒が5領域の技能を活用するための語彙補充が随所に見られる。特に「Word Bank」や「付録」ではコミュニケーションの目的や場面に応じて、活用が期待される語彙を整理して示している。 ○実生活に近い場面や題材を取り上げて言語活動を配置している。特に「Listening Task」は、放送案内などを再現している。 ○言語の働きを意識した定型表現が「付録」に示されている。 ○読み物の前に「SETTING」というコラムを設け、コミュニケーションの場面を明確化している。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○登場人物名の表記や多様な国や地域の生活習慣等、文化に対する理解を促せるような内容を取り上げている。 ○巻末に「What Can I Do?」というリストが示され、各学年における目標を明示している。 ○自ら学ぼうとする態度を育成するよう、「For Self-study」や音声再生の用のQRコードなどが設けられている。 ○日常生活場面だけでなく、環境や共生などの今日的な課題を取り上げたり、国際理解を取り扱ったりする内容が豊富である。 <p><聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元内に「Take Action」、複数単元のまとめりと「Project」など、学習した言語材料を5領域で活用してコミュニケーションを促す場がある。 ○主となる言語材料を学ぶ過程で、語彙等を広げる工夫がされていて、使いながら学べるよう工夫されている。 ○言語の働きを意識して、文法の解説をしてあるため、完全な文の形だけでなく句や節でのコミュニケーションができる。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○冒頭に学習の手順を示す資料として「この教科書のしくみ」が示されている。 ○巻末にある「Role-Play Sheet」で、対話形式の運用練習をしやすくする工夫がある。 ○語感をとらえるための視覚的な説明が随所に用いられている。 ○言語活動に必要な資料が図示されている。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○紙面にコラムや写真が多く、題材についての関心を高められるよう工夫されている。 ○UD font を使用しており、読みやすくする工夫が見られる。 ○親しみやすい挿絵が用いられ、主に内容の状況描写の補助となっている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校での外国語教育を踏まえた内容となっている。また、運用する語彙の拡充が図られており、生徒のコミュニケーションを支えられる内容となっている。 ○知識や技能を身に付け、それを活用するまでの一連の過程が教科書に示されており、生徒が無理なく学習を続けることが期待できる。 	

教科【外国語】・種目【英語】

<p>書名 項目</p>	<p>ONE WORLD English Course</p>	<p>17 教 出</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○パート毎に「Key sentence」として定着を図る文法を提示してある。この例文を基に指導し、繰り返し口頭練習を重ねてから、本文等の指導をできるよう工夫されている。 ○单元ごとの最終ページに、その单元で学習した言語材料のまとめが記載されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○パートごとに設定されている「Think&Try」では、教科書の本文に対して、自分の意見を付け加えられるよう工夫されている。 ○「Project」という单元では、学習した言語材料をもとに、クラスメイトにインタビューしたり、その情報をまとめたりする内容を扱っている。 ○取り扱う題材については、福祉、自然科学、文化、伝統、コミュニケーションなど、幅広い知識と教養を身に付け、言語や文化に対する理解が深められるよう配慮している。</p> <p><学びに向かう力、人間性を涵養するための工夫> ○各学年の巻末に「Activities plus」というまとまったページがあり、教科書で学習した文や表現を振り返ることができる。また、振り返りの中で、コミュニケーション活動に発展できるよう、複数のトピックが予め用意されており、このトピックをもとに「Small talk」等の活動をすることで、生徒自身が主体的に取り組めるよう工夫されている。 ○教科書巻末に「Can-Do リスト」がある。生徒も各観点で何を目標に英語学習を進めればいいのか、適宜確認しやすい。また、このリストを使うことで、教師と生徒が同じゴールをイメージして授業を進めやすい。 ○パートごとに、そのパートのゴールが示されている。</p> <p><聞くこと、読むこと、話すこと [やりとり]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫> ○单元ごとにある「Think&Try!」では会話の練習を行いながら、ペアで自由にやりとりが行えるよう工夫されている。また、全ての单元に配置されているので、生徒もペアで話すこと [やりとり] を、1年間を通して積み重ねることができる。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○单元ごとにイラストや写真が入っている。これらのイラストや写真を用いてテーマに興味関心を持たせたり、登場人物の把握をさせたりするなどの導入としての活動に応用できる。イラストがアニメーション風で、生徒の興味関心を誘いやすい。 ○教科書の巻末に、テーマごとに文法項目がまとめられている。また、マスキングシートが付属されており、自主的に復習しやすいように工夫されている。</p>	
<p>表 記 ・ 表 現</p>	<p>○本文を読んでいく上で必要となる語彙等が、適切に提示されている。また、発音記号も記載されており、必要に応じて指導しやすい。1年生の英語導入期には、学習者の負担が大きくなるよう、教科書に単語の意味が予め記載されている。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○各单元のまとめには「Review」「Grammar」というセクションがあり、その单元のまとめ、言語材料のまとめ等ができる。各パートで学んだことをしっかり定着させようとする工夫がされている。このような「振り返り」のセクションがあることで「確かな学力」の育成につながる。</p>	

教科【外国語】・種目【英語】

書名 項目	Here We Go! ENGLISH COURSE	38 
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○QR コードがついており、音声聞いて繰り返し学習できるよう工夫されている。 ○1年生では、「Let's be friends①～⑦」で、小学校での学びを生かすよう工夫されている。 ○帯活動教材「Active Words」や小教材「Active Grammar」では、使える語句を増やし、言葉の使用場面と意味・形・ルールを整理して適切に使えるようにする工夫がなされている。また、英語のしくみ等の巻末付録が充実しており、基本的な知識及び技能が定着するように工夫されている。 ○各単元が扉（話題の予測）→「Part1/2/3（話の細部の読み取り・場面に沿った練習）」→「Goal（単元の目標となる言語活動）」で構成されている。小さなインプットとアウトプットを繰り返すことで、無理なく定着を図る工夫がなされている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学年3か所に、それまでに学習した知識・技能を活用して取り組む、5領域を統合した「You Can Do It!①～③」の言語活動が設定されている。タスク(課題)に基づいて自ら考え、判断し、表現し、さらに対話的な学びにつなげられるよう工夫されている。 ○各単元の扉には「About You」、単元の Part3 には、吹き出しの Think の記号が設けられており、題材の内容に関して自分自身の考えや意見を述べる工夫がなされている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「本書の構成」、「各学年・各学期の目標」、「Play Back the Story(前の学年の内容の振り返り)」「Can・Do List(自己評価)」が示されており、見通しを持って学習できるよう工夫されている。 ○主教材の題材の多くは、中学生の日常生活や身の回りのできごとを扱っている。学年が上がるごとに、また、小教材の「World Tour」や「Let's Read」では、異文化理解、世界平和、環境問題、科学技術等、SDGs や他教科につながる題材で、多様な見方・考え方を育てる工夫がなされている。 ○「英語の学び方ガイド」では、英語学習の悩みや英語学習のポイント等、中学生の目線に立ったアドバイスが多数掲載されている。自ら学びに向かう力を滋養する工夫がなされている。 <p><聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各単元で5つの領域をバランスよく学習できる工夫がなされている。また得た知識や技能を活用して取り組む、5領域統合の「You Can Do It!」、領域別に実践的な英語力を伸ばす小教材の「Daily Life」、自分の考えを深める「Let's Read」が、段階を追って設定されている。 ○帯活動教材の「Let's Talk」では、テーマにそって即興で話すこと [やりとり]を行う活動、帯活動の「Story Retelling」では、自分の言葉で話す力をつける工夫がなされている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○3年間を通して、登場人物が色々な体験や交流を通して成長していく自然なストーリーが基盤になっている。共感しやすい内容、英語に抵抗がある生徒も取り組みやすい。 ○淡い色合いのイラストや図がたくさん用いられており、親しみやすいのが特徴である。 ○各 Unit の導入の扉に、大きな写真が用いられており、学習の見通しが立てやすい。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○明確な指示とシンプルな記号が用いられており、一目で理解できるよう工夫されている。 ○1年では手書き風の字体とブロック体、2年以降はセリフ体を使用し、外部試験等で使われる字体に少しずつ慣れることができるように、工夫されている。 ○シンプルでわかりやすい構成、色分けだけでなく形でも認識できるような工夫、文字の大きさや太字の使い分け等、どの生徒にも理解しやすいよう配慮されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○すっきりとシンプルにまとまっており、学習しやすい。 ○小学校での学びを生かし、中学校の学習につなげていくよう工夫されている。 ○高校での学習やその後の学びにまで役立つような学習のアドバイスや、英文の読み方や書き方のコツ、会話のつなげ方等、学びに向かう力の育成の工夫が随所に見られる。英語が好きな生徒を伸ばし、抵抗がある生徒を励ますようなメッセージが込められている。 	

教科【外国語】・種目【英語】

<p>書名 項目</p>	<p>BLUE SKY English Course</p>	<p>61 啓林館</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○パートごとに「Target」として定着を図る文法を提示してある。授業でこの例文を基に指導し、繰り返し口頭練習を重ねてから、本文等の指導をできるよう工夫されている。 ○「Target」というセクションではテーマごとに文法がまとめられている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○各単元の最後に「Express Yourself」というページがあり、その単元で学習したことを生かし、自分の意見や感想を作り、発表することができる。 ○「Project」というセクションでは、身近な話題について考えられるようテーマ設定してある。その上で、自分の意見を英文で表現できるよう工夫されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性を涵養するための工夫> ○「Let's talk」というセクションでは、日常会話にも通じる身近なテーマで構成されている。取り組みやすいテーマなので、生徒も意欲的にモデル文の口頭練習に取り組み、繰り返し口頭練習を行い会話文に慣れさせ、その上でペアでオリジナルのスキットを作ることができる。 ○異文化への興味や関心を喚起する内容を取り上げている。 ○教科書巻末に「Can-Do リスト」があり、生徒も各観点で何を目標に英語学習を進めればいいのか、適宜確認しやすい。また、このリストを使うことで、教師と生徒が同じゴールをイメージして授業を進められるようになっている。 ○パートごとに、そのパートのゴールが示されている。</p> <p><聞くこと、読むこと、話すこと [やりとり]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫> ○教科書の巻頭付録には、話すこと [やりとり] の基礎となる表現が記載されている。授業の導入等で繰り返し口頭練習を行い、実際の場面で使えるように指導していくことができる。 ○各単元の最後に「Express Yourself」というページがあり、その単元で学習したことを生かし、話すこと [発表] に慣れていけるように工夫してある。全ての単元に配置されており、年間を通した指導を見通すことができる。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○巻末に、語感をとらえるための視覚的な資料とともに前置詞がまとめられているので、扱いやすい。</p>	
<p>表 記 表 現</p>	<p>○本文を読んでいく上で必要となる語彙等が、適切に提示されている。また、発音記号も記載されており、必要に応じて指導しやすい。 ○英文、そしてその英文に関する写真が視覚的な補助として配置されているので、何について書かれているのか、想像しやすい。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○各単元の最初のページには、その単元の「テーマ」「目標」が書かれている。また、各パートにも目標が書かれており、明確なゴール設定があるので、学習者としては取り組みやすく、主体的に英語学習に取り組む姿勢を期待できる。</p>	